

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°63 アレックス・フォワヤール

生産地方：ボジョレー

新着ワイン3種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ 2018 (赤)

アレックスの初リリースワイン！2つのクリュ・ボジョレーだけではなく、個人的にも気軽に飲めるワインが欲しいとの思いで造ったのがこのボジョレー・ヴィラージュだ！コンセプトはヴァン・ド・ソワフだが、ただ単にグビグビいけるだけのワインではなく、樹齢90年のブドウを入れるなどあくまでも彼のモットーである「エレガントで深みのあるワイン」というこだわりは捨てていない！出来上がったワインは、ひと口飲んだら分かるが、いわゆるボジョレー・ヴィラージュとは一線を画す上品さと滑らかさが際立った、見事な味わいに仕上がっている！とにかく果実味がピロードのように艶やかで、美味しさのあまり思わず唸ってしまうくらいアレックスのセンスが見事に反映されたワインだ！

AC ブルイイ 2017 (赤)

2017年は日照りによりポリューム豊かなワインが出来上がった！今回は50%樽熟だったが、今回は果実のフレッシュさを少し際立たせるために樽熟を30%に減らしタンク熟成の割合を70%増やした。出来上がったワインはアルコール度数が14%もありパワフルだが、それを感じさせないどこか女性的な酒質の柔らかさと艶がある！アレックス曰く、今飲んででももちろん美味しいが、2017年はポテンシャルのある年なのでできればあと数年寝かせてから飲んでほしいとのこと。今回は彼のコート・ド・ブルイイに衝撃を受けたが、今回はこのブルイイの滑らかさにノックアウトされそうだ！

AC コート・ド・ブルイイ 2017 (赤)

ブルイイ同様に2017年は日照りによりポリューム豊かなワインが出来上がった！今回は果実味を生かすために100%セメントタンクで熟成させたが、今回は逆に長熟に耐えるワインを見込んで100%古樽熟成で仕込んでいる！出来上がったワインは、アルコール度数が14.5%もありパワフルだが、一方で、清涼感すら感じられる洗練されたミネラルが骨格にあり、飲んでいて全く疲れがない！これぞアレックスマジック！と言うべきか、彼のワインにはどのキュヴェにも必ず女性的な滑らかさと艶めかしさがあるところがスゴイ！彼自身は、最低5年は寝かせてほしいというが、確かに、あと数年寝かせてさらにまるやかになったワインをぜひ飲んでみたい！

ミレジム情報 当主アレックス・フォワヤールのコメント

2017年はブドウが早熟の年。冬は暖冬でブドウの芽吹きも比較的早かった。4月終わりから5月初めにかけてフランス全土に霜が降りたが、ブルイイはほとんど影響がなかった。急な寒さにより一時的に成長のスピードは落ちたが、5月終わりから再び天候に恵まれ、6月の時点でブドウの成長サイクルは前年よりも約2週間ペースが早かった。開花は順調。7月にボジョレーの南とモルゴンからムーランナヴァンにかけて雹が降ったが、幸いブルイイは被害がなかった。その後は太陽の照りつける暑い日が続いた。ブドウは一時的に成長にブレーキがかかったが、8月の終わりに50mmを超える雨が降ったおかげでブドウは息を吹き返し、そのまま無事収穫までたどり着くことができた。

2018年は、日照りにもかかわらず収量に恵まれたミラクルな年。また、前年よりもさらにブドウが早熟の年だった。冬は雨が多く暖冬でブドウの芽吹きはかつてなく早かった。遅霜はなかったが、春は天候が安定せず雨の日が多く続いた。また、気温も湿気も高くブドウの成長は勢いを増すと同時にミルデューが心配された。だが、6月に入ると雨はピタリと止み、乾燥した日々が8月の終わりまで続いた。夏の猛暑により畑の日照り

が心配されたが、結局冬と春に降った雨のストックが地中にあったおかげで、水不足の影響なく健全なブドウを取り込むことができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① ブレイイ山の裾野にある
コート・ド・ブルレイイの畑

これは2018年の5月終わりに撮ったアレックスのコート・ド・ブルレイイの畑の写真。(写真①) AOC コート・ド・ブルレイイは、後ろに見えるブルレイイ山の斜面にある4つの村が指定されている。ブルレイイ山は大昔火山が隆起してできたもので、アレックスの畑はもともと平地だったところが、ちょうどブルレイイ山の隆起に押し出された裾野部分に位置する。そのため、コート・ド・ブルレイイでもブルレイイ山に多く含まれるピエール・ブルーと呼ばれる斑岩質の火山岩はほとんど含まれず、土壌構成は花崗岩が風化した砂地がベースだ。この畑をビオに転換したのは2年前。以前は全く土お越しをされていなかったのに、最初の年にアレックスが行った作業は、土を耕すと同時に地表を這うように横に伸びたブドウの根を切る作業だった。この作業は根を地中深くに根付かせるために必要な作業だが、ビオに転

換される前の生ぬるい環境になれたブドウの樹にとってはかなりのストレスとなる。2017年のワインの収量が27hl/haと前年の半分に落ちたのはこの根切りの作業が大きく影響している。

次に、これは2019年の5月最初に撮ったブルレイイの畑の写真。(写真②) この畑はアレックスが取得する以前からビオで管理されている。コート・ド・ブルレイイよりも樹齢が古く土壌は一面花崗岩石で覆われていて、しかも昔ながらのゴブレ仕立てなので、株と株の間隔が狭くトラクターが入りづらいことから一切土お越しはされていない。写真にはちょうどコクリコの花が写っているが、このコクリコの花はビオのシンボルでもあり、よくこの花が咲いている畑は土壌が農薬で汚染されていないと言われる。



写真② コクリコの花の咲くブルレイイの畑

二つの写真を見ても分かるように、双方わずか数キロも離れていない場所にあるのにこれだけテロワールが違う。アレックスのブルレイイがコート・ド・ブルレイイよりも力強いのは、ヴィエーユ・ヴィエーヌとあのごつごつとした花崗岩石が影響していて、反対にコート・ド・ブルレイイのエlegantさは砂地の土壌から来ているということが良く分かる！彼自身、2016年のワインは、コート・ド・ブルレイイのエlegantさを際立たせるために100%タンクで仕込み、また、ブルレイイは深みを出すために熟成に半分樽を使用し、それぞれのテロワールの特徴に合わせて仕込んだが、今回の2017年、2018年は、全く逆の醸造方法で仕込んでいる。つまり、コート・ド・ブルレイイのエlegantさに樽熟を加えることで深みを与え、一方のブルレイイはタンク熟成させることによって力強い味わいにフレッシュさとエlegantさを加えるという方法を試みたのだ。「テロワールは畑の仕事をしっかり行うことで自然とワインに表れるので、敢えて醸造によって強調する必要はないと思っている。ただ今回は敢えて前年とは真逆の方法で仕込むことで、テロワールの個性というよりもワインのバランスに重点を置いた」と彼は2017年、2018年ワインの特徴を語ってくれた。

今回、そして今後のリリースについても、2つの畑のテロワールの特徴とアレックスのコンセプトを押さえながら飲むとより一層楽しめること間違いなし！

(2018.5.28.&2019.5.3&6.14のドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ